

フィッチ、ニッシンのサービサー格付を維持； 格付ウォッチ・ネガティブを解除

フィッチ・レーティングスー東京/ニューヨーク/シンガポールー2008年6月26日：

フィッチ・レーティングス（フィッチ）は、ニッシン債権回収株式会社（ニッシン）のASETバックト・スペシャルサービサー格付を「ABSS3+(JPN)」に、コマーシャルモーゲージ・スペシャルサービサー格付を「CSS3+(JPN)」にそれぞれ据え置いた。また同時に、格付ウォッチ・ネガティブを解除した。

フィッチは2007年12月21日付で、ニッシンの親会社であるNISグループ株式会社（NISG）の財務の安定性に対する懸念がニッシンに与えた影響を鑑み、ニッシンのASETバックト・スペシャルサービサー格付を「ABSS3+(JPN)」に格下げした。財務の状況はフィッチのサービサー格付分析の重要な要素である。また、ニッシンはNISGが74%を保有する子会社である。

同時にフィッチは、NISGが米国プライベート・エクイティ投資会社のTPGとの間で、NISG及びその一部の子会社に対してTPGより総額300億円規模の出資を受ける（TPG取引）ことを主な内容とする資本・事業提携に合意したことを受けて、TPG取引の成否及びニッシンに対する影響を見極めるまでの間、ニッシンのサービサー格付を格付ウォッチ・ネガティブの対象とした。

TPGは、2月のNISGの臨時株主総会におけるTPG取引の承認を受けて、当初の合意内容どおりNISG単体に対する200億円の増資を含む総額300億円強相当の出資を実行し、NISGの筆頭株主となった。これに伴い、NISGはTPGより6名の取締役を受け入れ経営陣の大幅な入れ替えを行った。NISGは、TPGの資本及び経営への参加により、財務内容が強化され経営の安定化に向かう基盤を得たものと思われる。

フィッチはその後、ニッシンのサービシング業務の検証を行い、2007年の前回見直し時から大きな変化がないことを確認した。ニッシンは経験豊富な経営陣及び回収担当者を堅持しており、引き続きリスク管理の強化を行いながら業務を安定的に運営している。フィッチは、本件格付ウォッチ・ネガティブ解除の後も引き続きニッシンの状況を注視し、年内に定例の格付見直しを行う所存である。

フィッチは、日本のプライマリー、スペシャル、マスターサービサーについて取扱債権の種類別に、最上位の1（「完全な承認（全般的に優秀なパフォーマンス）」）より5（「条件付き承認」）の五段階に分けて格付している。なお、各段階に対して、+（プラス）または-（マイナス）の符号を付ける場合があるが、これら+（プラス）または-（マイナス）の符号は、その段階の中でも相対的にレベルが高いことまたは低いことを示している。また、JPNの符号は日本のサービサー格付に付けられるが、当該格付が日本の法的、経済的、社会的環境と関連していることを示すものである。格付の定義など詳細については、フィッチのレポート「日本のサービサー格付基準（2007年7月11日）」に記載されている。上記レポートはフィッチのウェブサイトで開催されている（アドレスは日本語：www.fitchratings.co.jp、英語：www.fitchratings.com）。

照会先：上野 光宏（東京）電話：03-3288-2605、ダイアン・ペンドレー（ニューヨーク）電話：
+1-212-908-0777

メディア照会先：尾崎 千夏（東京）03-3288-2679

フィッチの格付の定義および格付に使用する用語は弊社のウェブサイト www.fitchratings.com/ www.fitchratings.co.jp（日本語）に掲載されています。公表された格付、格付基準、格付手法も同サイトに常時掲載されています。フィッチの行動規範、守秘義務、利益相反、関連会社間のファイアウォール、コンプライアンス及びその他の方針・手続き等も www.fitchratings.com 上の「行動規範」でご覧いただけます。